

北海道国語教育連盟 研究部 活動計画



良質な国語科授業の創造により北海全道の児童・生徒の国語力向上を目指す

2020. 4. 18

北海道教育大学附属札幌小学校 中島 大輔

1 担当者

部長 中島 大輔（北海道教育大学附属札幌小学校）
副部長 鈴木 真之介（北海道教育大学附属札幌中学校）
後藤 卓（札幌市立幌南小学校）

部員 <小学校>

渡部 伸野（札幌市立北光小学校）
高桑 陽子（札幌市立幌西小学校）
松岡 佑（札幌市立手稲北小学校）
安尻 太郎（札幌市立西岡小学校）

<中学校>

森山奈緒子（市立札幌開成中等教育学校）
山上 史織（札幌市立啓明中学校）
松森 亮介（札幌市立屯田北中学校）

2 業務内容（括弧内は主担当）

- ① 研究主題及び副主題の設定、研究活動の推進（中島・鈴木・後藤）
- ② 研究大会の計画及び運営（中島・鈴木・後藤）
- ③ 学習会による全市・全道への研究活動の発信（高桑・安尻・森山・山上）
- ④ 全国の研究団体との交流及び研究動向の調査（渡部・松岡・松森）
- ⑤ 全道や全国での研究会・研修会等の講師派遣（窓口：中島）

3 業務内容の具体

①研究主題及び副主題設定、研究活動の推進（中島・鈴木・後藤）

研究主題による良質な国語科授業の創造・展開

研究推進部では、研究主題及び副主題を設定し、授業実践を通して検証しながら、成果と課題を集積する形で研究活動を進める。成果と課題を次の授業実践に反映させ、より良質な国語科授業を創造・展開できるようにしていくことで、北海道の児童・生徒の国語力向上を目指す。

「不易と流行」そして各地区の熱意を集約して

主題設定では、これまでの研究成果を継承しつつ、新しい国語科教育が目指すものを踏まえ、「不易と流行」を大切にする。さらに、全道各地区の「北の国語人」の熱意を集積しながら、北海道の国語教育を高められるよう、主題の価値を授業実践と併せて発信していく。

学習会と研究大会を通して推進する

前述の通り、研究主題及び副主題について授業実践を通して検証していく。各地区の学習会や研究大会の活動推進に寄与し、成果と課題を集積できるようにする。その際、各地区の研究部や研修部と連携を取りながら進めていけるようにする。

今年度の研究主題について

言語活動を通して言葉への自覚を高め、言葉の力が身に付く国語科授業の創造（仮）

※札幌大会の成果と課題を踏まえ、現在検討中。

「言語活動を通して」…良質な言語活動を通して資質・能力を育成する。良質な言語活動とは、児童・

生徒が学ぶことに期待や意欲がわいたり、学ぶことへの意味を明確にもったりできるような仕掛けがあることが欠かせない。そして、児童・生徒の学びの方向が指導事項を身に付けることと一致する活動である。

「言葉への自覚を高め」…児童・生徒が、言葉の持つ価値について言語活動を通して実感し、言葉への自覚を高めることで、日常に生きて働く力となることをねらう。

「言葉の力が身に付く」…私たちが求めるのは、次のような姿である。①言葉を通して正確に意図や内容を理解したり、言葉を適切に表現したりする姿。②言葉を駆使して考えを形成する姿。③言葉を通じて人と社会と関わり自他の存在についての理解を深め、豊かな社会性を身に付ける姿。「言葉の力が身に付く」とは、そのような姿であり、言語活動、とりわけ「実の場」を通してそのような姿にせまっていくことをねらう。

② 研究大会の計画及び運営（中島・鈴木・後藤）

③ 学習会による全市・全道への研究活動の発信（高桑・安尻・森山・山上）

全道大会や各地区の研究大会においては、開催地区の研究成果を継承しながら、各地区の研究部と連携を取りながら計画及び運営に当たる。学習会については、本連盟の研究主題及び副主題、授業実践の成果や課題を広く発信できるよう、各地区で適宜設定し、運営に当たる。その際、小中学部や各地区の研修部と連携を取りながら進める。

④ 全国の研究団体との交流及び研究動向の調査（渡部・松岡・松森）

⑤ 全道や全国での研究会・研修会等の講師派遣（窓口：中島）

全道の研究団体はもちろん、全国の研究団体とも積極的に交流を図り、各地の研究動向をつかむようにする。さらに、全国へ本連盟の研究内容を積極的に発信する。そのために、提言発表者や講師等の派遣依頼があった場合は、事務局の助言を受けながら、人選に当たる。

4 年間計画（通常）

月	全道	札幌地区
4月	研究部活動計画（案）の作成・提案 全道大会・全国大会の提言者決定 全道各地への講師派遣者選定	札幌地区研究大会の授業者決定
5月	役員会、常任委員会での年間計画及び研究主題（仮）の提案 各地区との研究推進計画の打合せ	月例学習会のチーフと研究内容の打合せ
6月	夏の学習会の講師及び発表者の選定	
7月	夏の学習会（小中学部と連携）	
8月	全道大会開催地との連絡調整	札幌地区研究大会の会場校との連絡調整
9月	全道大会開催地との最終調整	札幌地区研究大会の担当部会との連絡調整
10月	全道大会開催 国語教育連盟総会	
11月	全道大会のまとめ	札幌地区研究大会開催
12月	全道大会のまとめ	札幌地区研究大会のまとめ 冬の学習会発表者の決定
1月		冬の学習会（小中学部と連携） ※札幌地区 研究大会の担当部会以外による発表
2月	年度反省	冬の学習会のまとめ
3月	次年度の研究活動計画の素案作成 次年度全道大会の研究推進の連絡調整	次年度札幌地区研究大会の授業担当部会と 授業者仮決定

5 年間計画（今年度） ※札幌地区研究大会の立ち上げと新型コロナウイルス感染症対応による

月	全道	札幌地区
4月	研究部活動計画（案）の作成・提案 全道大会・全国大会の提言者決定 全道各地への講師派遣者選定	札幌地区研究大会の概要提案
5月	役員会、常任委員会での年間計画及び研究主題（仮）の提案 各地区との研究推進計画の打合せ	月例学習会のチーフ決定 オンライン会議による研究推進 <u>（月例会にも適用可能か検討）</u> 家庭での国語力向上プロジェクト始動 <u>（情報部運営のHPを活用）</u>
6月		オンラインによる研修活動 家庭での国語力向上プロジェクト始動
7月	夏の学習会（今年度は中止） ※オンライン学習会の可能性検討	
8月	全道大会開催地との連絡調整	
9月	全道大会開催地との最終調整	月例会の活動スタート（小中学部の所管） ※オンライン月例会の可能性検討
10月	全道大会・国語教育連盟総会（予定）	
11月	全道大会のまとめ	札幌地区研究大会の計画確定
12月	全道大会のまとめ	冬の学習会発表者の決定
1月		冬の学習会（小中学部と連携） ※札幌地区研究大会の計画提示
2月	年度反省	冬の学習会のまとめ
3月	次年度の研究活動計画の素案作成 次年度全道大会の研究推進の連絡調整	次年度札幌地区研究大会の授業担当部会と授業者仮決定

※2学期以降も新型コロナウイルス感染症の影響が大きいようなら、「家庭での国語力向上プロジェクト」「オンライン月例会」を継続して取り組むことも視野に入れる。

6 札幌地区研究大会について

趣旨や年間計画は別紙参照。

検討事項は以下の通り。

①授業会場は小中合同か分割か。※他団体の札幌大会の参加人数から考えて、分割が妥当か。

②時程はどうするか。

A案（小中合同） 午前：小学校授業公開 午後：中学校授業公開→研究提言・合同授業分科会

B案（小中分割） 午前：各々授業公開 午後：各々研究提言・授業分科会

C案（小中分割）

小
中

 午前：授業公開（2校時）→研究提言・分科会 午後：提言発表

中

 午前：授業公開（4校時） 午後：研究提言・分科会

D案（小中分割）

小

 午前：1次公開→2次公開 午後：研究提言・分科会

中

 午前：授業公開（4校時） 午後：研究提言・分科会

③授業者の選定について ※別紙「開催の趣旨」に提案済だが、検討する必要があるのでは。

E：部会で持ち回りとし、部に一任する。（他部会は大会参加するが年間では大きな発表なし）

F：部会で持ち回りとし、部に一任する。（他部会は大会後に提言発表を担当）

G：部会で持ち回りとするが、授業者は事務局が選定。

H：部会で持ち回りとし、部もしくは事務局で選定した授業者1名。同一会場から複数名。

I：研究部の意向を受けながら事務局で選定（授業者の所属部会に偏りが生まれる可能性あり）

7 「家庭での国語力向上プロジェクト」「オンライン月例会」について ※後日詳細提案